

「中央アジア＋日本」対話・外相会合
議長声明（仮訳）

- 1 2020年8月11日、「中央アジア＋日本」対話・外相テレビ会合が開催され、茂木日本国外務大臣（議長）、トレウベルディ・カザフスタン共和国外務大臣、アイダルベコフ・キルギス共和国外務大臣、ムフリッディン・タジキスタン共和国外務大臣、メレドフ・トルクメニスタン副首相兼外務大臣、カミーロフ・ウズベキスタン共和国外務大臣が出席した。
- 2 各国外相は、（１）新型コロナウイルス感染症対策における中央アジアの域内協力及び日本との協力並びに（２）2022年の外交関係樹立30周年を見据えた協力の在り方、特に次回の第8回外相会合に向けた議論の方向性について活発な意見交換を行った。
- 3 各国外相は、現在、世界的な新型コロナウイルス感染拡大により、交流が困難な状況である中でも、昨年5月のタジキスタンでの第7回外相会合によって更に高められた対話と協力の機運を維持することが重要であることを指摘した。
- 4 議長は、中央アジアの「開かれ、安定し、自立した」発展のためには地域諸国間の連帯がますます重要となっており、日本が「触媒」として貢献するとの基本的考えは全く揺るぎないことを指摘するとともに、自由で開かれた国際秩序の重要性を強調し、中央アジア諸国の各国外相から賛意が示された。また、各国外相は、中央アジア諸国間で新型コロナウイルス対策における協力や知見の共有が進んでいることを確認し、共通の危機を克服する上で、更なる連帯が一層重要となっているとの認識を共有した。
- 5 中央アジア諸国の各国外相は、日本が各国の取組を後押しすべく、（ア）総額約20億円の保健・医療機材の無償供与、（イ）国際機関を通じた技術支援・保健医療物資供与、（ウ）アビガン錠の無償提供、（エ）医療専門家間の意見交換を含む感染症対策に係る情報・教訓・知見の共有等の協力を進めていることに対し、感謝の意を表明した。
- 6 各国外相は、2022年に日本と中央アジア諸国が外交関係樹立30周年を迎えることを踏まえ、日本で開催される次回の第8回外相会合は、ポストコロナの新たな状況において中央アジア5か国が連帯を強化する姿を示し、日本がこれを後押しする機会となることへの希望を表明した。
- 7 各国外相は、次回の第8回外相会合における議論の方向性について協議を行い、今後、高級実務者会合（SOM）で調整することで一致した。